

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホームやすらぎの里(玄海灘ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設のある場所は昔から農業が盛んな地域にあります。館の前には広い畑が広がり、四季折々を感じさせる作物を作られています。車の通りも少なく、とても静かな環境です。町内には桜の名所が数か所あり桜の花見に出かけます。また吉野梨の産地でもあり、梨の花を見学にも出かけます。ここ数年はコロナ過で出かける行事が減っていますが、初詣は館内に鳥居や賽銭箱等を作ってお参りしてもらっています。外に出かける行事が少ない分、館内での行事で楽しく過ごして頂けるよう、職員がいる工夫して取り組んでいます。入居者が楽しく安心して生活できる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設よりの経年、人の動きの多さ(職員及び入居者の入退居等)や感染予防対策として外部との交流もままならない状況もある中で、桜見学や室内での夏祭り等工夫しながら笑って過ごせる日常を支援している。理念で掲げる地域との共存共栄の実現には感染症が立ち塞がったものの、今年子ども神輿の来訪等もあり、今後の住民との交流促進に期待される。毎月課題を提示しながらの会議や、月毎の目標達成に真摯に取り組み、身体拘束や虐待をしないケアの実践、特に言葉使いについては課題として共通認識でケアに当たっている。高齢化・重度化の中で協力医療機関との24時間の連携は入居者や家族の安心に繋がり、日々の穏やかな生活ぶりは、安心した暮らしとして垣間見ることが出来るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	根本的なもの、価値観を共有して、実践に繋げるようにしている	開設当初からの基本理念5項目をもとに、毎月目標を掲げ、未達成時には次月の目標とする等理念をケア規範・原点としている。理念に謳う地域の皆様との共存共栄は感染症予防対策の徹底により難しくなっている。	開設して経年、人的環境・社会的な環境の変化の中で、目標達成に真摯な姿勢で臨まれている。職員体制の変化、入居者の状況の変化等も見られ、今後も理念に向き合い、職員がしてあげたいケア等具体的なサービスに繋がるよう全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともとが地域とのつながりは薄かったが、新型コロナ感染症が流行してからは、全く交流は行われていない。	地域との関係が途切れがちであったものの、子ども会による神輿の来訪等徐々に子ども会等を通して以前に戻りつつある。地域の敬老会に招待される等地域の中の事業所として地域から認識されている。	入居者への外出支援として桜や梨の花等車窓から見学する機会を作っている。外に出て地域住民との交流はまだであり、入居者も少しずつ地域に出られるよう支援いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流は殆どなく、支援の方法は生かされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症の為、会議を開くことが出来ず委員さんには書類送付し、書面にて報告を行っている。意見を求めているが、意見や問い合わせの連絡はない	運営推進会議は対面で開催できた回もあるが、感染症の状況により書面審議として2ヶ月分の報告書とともに課題を上げて案内し、意見等を収集する体制としている。今後、対面開催が可能となれば、意見や提案等率直な意見が出されることと期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの手紙やメール等でわからない時は電話で聞いたり役場に出向いたりして聞いているが、協力的に対応してもらっている。	運営推進会議に参加される地域包括支援センター職員との情報交換や、在宅制生活困難事例の相談、入居相談による入居等良好な関係を築いている。行政とのメールでのやり取りや福祉事務所と連携しながら入居者の生活を支えている。更には、行政に運営推進会議への参加を依頼してみると良いと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の勉強会を行い、全ての職員が身体拘束を理解した上でケアに取り組んでいる。	身体拘束指針を整備し、身体拘束適正化委員会の他、新たに虐待防止委員会を立上げ、入退院の入居者の事例を通して拘束を行わない方法を全員で検討している。外部研修へ参加した職員による復講により共通認識を図り、新規入職者には新人教育の中での研修により意識強化を図っている。職員の言葉使いについては特に委員会で取り上げることとして、注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで虐待について学び、ケアの中でも虐待に繋がらない様注意しながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と考えられる利用者がある場合は、管理者や家族等と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明を行い家族に理解・納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは会話を多く持つことによって意見や要望を聞き取っている。家族へは電話などで連絡を取り合い、意見や要望を聴き取り運営に役立たせている。	入居者からは日常生活の中で聞き取りしている。家族からは衣服等気になることを訪ねられる等家族と職員との良好な関係を築き、コロナ禍の中で交流する機会も無くホームから電話にて報告し、入居者の声等を代弁している。家族からの意見が“やすらぎの里便り”の見直しに繋がりと、2ヶ月毎に送付する体制とする等サービス向上に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時やその都度管理者に報告し、職員の意見として生かしている。	毎月ユニットでの話し合いを元に全体会議を行っている。職員体制や行事予定等の他、各ユニットの状況を把握する等議題を提示しながら話し合いを行っている。また、月毎の目標の進捗状況を話し合いながら、次月の目標を設定する等全員が意識を統一して取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気軽に話し合える場を設けたり、一人一人が希望する労働時間等で働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの為、外での研修を受けるのは難しいが、施設内での研修を受ける機会が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス予防の為、同業者間の訪問は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	どういことが不安なのか、何に困っているのかを聞き出し、それに対してどう安心して頂けるのかを考え行動している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の困りごとや不安な事等の要望をしっかりと聞き、理解できるように努め、家族と信頼関係が持てるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の一番の問題点や不安を見極め、サービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや身体的能力を暮らしの中で発揮できるよう支援し、より良い関係を保てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が難しい状況の中では電話で家族と連絡を取り合い本人の状態を報告し、職員と家族が一緒に考えることで、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所の事を聞き、会話の度に、馴染みの人の名前や馴染みの場所の名前を口にして忘れられないように支援している。	馴染みの場所への外出は厳しい状況にある中で、入居者との会話の中でこれまでの住まいや仕事等昔の話などから把握している。美容院の継続した利用や、同郷など入居者同士の関係が馴染みの関係性にある。感染症が5類に変わり、家族の訪問も多くなってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格を把握し、孤独にならないような環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても次の環境で本人が安心して過ごせるように、相談に乗ったり情報を提供して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意向に添った介護が出来るように職員間で話し合い、その人らしい暮らしを提供できるように取り組んでいる。	入居者との会話の中からの把握や、発語困難な方にはジェスチャー等非言語的なコミュニケーションの他、職員から話しかけている。意思表示の難しい方には職員が表情等により推察している。入居者から把握した事案(欲しいもの、食べたいもの等)を家族に代弁することで本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、今までの家庭での生活に近づける様取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現在の状態を把握し、現在の状態を理解し、出来ることを維持できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やチームで話し合い、家族も踏まえた中で、より良い介護計画が作成されているのか、モニタリングを繰り返しながら作成している。	家族の訪問時や電話を通して意向等を聞き取りし、職員の杵築や観察を持ち寄り毎月の会議の中での話し合い、計画書を暫定的に作成し、家族に説明している。退院時の見直しや状態変化による計画の内容変化、介護保険更新に合わせた見直し等現状に即したプランである。モニタリング(3ヶ月毎)では夜間の排泄についての検討や睡眠の質等を検討し、機能低下防止、認知機能低下予防等具体的に組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきや行動も記録に残し、職員間で情報を共有し、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変わっていく状況、状態にその時どんな介護が必要か考え、状況に合わせた介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるか把握しづらい。一人一人に合った地域資源を把握できるように努力し、支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合い、同意を得て事業所の協力医院をかかりつけ医とし、受診を行っている。ほかの医療が必要となった時はかかりつけ医に相談しながら他医療機関を受診している。	契約時に月1回の定期往診のある協力医療機関の存在を説明している。現在は全入居者が協力医による定期的な訪問診療と必要に応じた往診、紹介状による専門医受診等を支援している。かかりつけ医の指示により緊急搬送する場合もある。毎食後の歯磨きは職員による支援や自立の方の確認を行い、必要に応じて地域にある歯科医での受診や認知症専門歯科への紹介が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回のバイタルチェックで状態に変化を感じた時にはすぐかかりつけ医に報告し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と情報交換を行い、本人が安心して治療できる環境づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の段階では家族・かかりつけ医・職員で話し合い、施設で出来るケアをチーム全体で把握し、支援している。	協力医との連携によりホームでの重度化・終末期支援が行われている。入居時に継続した医療が必要となれば入院となるが、ホーム内で出来得る支援であれば看取り期に対応できることを伝えている。現在は殆どの方がホームでの最終を望まれている。職員は本人・家族の思いをくみ取りながら最終を支援しているが、コロナ禍で行われた際は不安や大変さなどもあがったようである。	看取り研修は行われていないようであり、職員のメンタル面にも配慮した研修や振り返りの機会を持つ事も必要と思われる、今後の取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていない。その時に応じて出来る範囲で対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	洪水避難訓練。年2回の昼夜の火災避難訓練を行い、安全に避難できるよう訓練を行っている。	年2回の火災避難訓練を実施しており、11月に夜間想定訓練を予定している。また、自然災害の対応として水害時の避難訓練を机上で実施している。	職員より消火器の使い方について学びたいという要望があがっており、今後の取組が期待される。また、安全チェックの一つとして、コンセントの確認の機会も期待したい。備品・備蓄の確保については、今後火災と感染対策のものを準備しておくことが重要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け、親しみを込めながらも目上の方に対する尊敬を持ち対応するようにしている。	管理者は入居者一人ひとりの話に耳を傾ける事を心掛けるよう周知を図っている。呼称は基本的に苗字としているが、希望や反応、同姓、旧姓などを認識されている方には下の名前でも対応している。職員の守秘義務の徹底やホームだよりの写真掲載については、入居時に家族等に了承を得ている。また、写真の登場数なども十分配慮し、楽しんでもらえるようにしている。身だしなみやおしゃれについては本人の意向を聞きながら支援しており、損傷などにより新たな衣類が必要な場合は、サイズ面など職員の方が選択しやすいことから代行での購入も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で思いを伝えるのが難しい方にはジェスチャーや短い言葉等で対応して思いを引き出し、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でテレビを見たり、ホールで過ごしたり、一人一人が自分に合った過ごし方をされているのを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、自分で着たい衣服や下着を選べる人には本人に準備して貰っている。1か月か2か月毎に散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や形状、硬さなど、一人一人に合った食事を提供している。食後の食器拭き等を利用者と共に行っている。	現在ホーム内調理が実施されているが、新年度からは以前のように隣接する施設厨房による体制も検討されている。午後のおやつはホームからの提供の日と、家族による準備もあり、夕食の負担にならず、生ものでなく本人のお好みものを届けられている。食事はホールでユニットが揃って摂っており、キザミやミキサー食、見守りや個々に応じた介助で進められている。入居間もない方が居室での食事を希望される場合にも対応し、無理なく他の入居者の中に入れるよう配慮している。入居者の中には下膳や食器洗い等自然体で行われる姿も見られた。	ホーム内の調理場で作られており音や匂いも間近に感じられることや、温かい食事の提供に繋がっている。今後も入居者や検食職員の感想などを活かしながら、楽しみな食事支援が継続されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日把握し、健康状態を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず一人一人に合わせた口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように状態に合わせながら支援している。	個々に応じた声掛けや誘導、介助など必要な排泄を支援している。殆どの方がリハビリパンツで過ごされているが、布パンツの方も1名おられる。ベッド上のオムツ交換は本人にも負担が無いよう、2名の職員がタイミングよく交換し、ポータブルトイレも日中や夜間のみなど状況に応じて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車椅子の人が多く、運動で排便促進が難しい。お腹をマッサージしたりしてなるべく自然排便となるよう気をつけている。かかりつけ医と相談しながら薬などで対応し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否があった時は時間をずらしたり、他の曜日と入れ替えたりして気持ちよく入浴が出来るように支援している。	入浴は週2回、午前中に支援している。入浴を拒否をされる方には、無理強いせず好みの食べ物の話などをしながら誘導している。ホームの浴槽は深めであり、安全面からシャワー浴が中心の方もおられ、脱衣所を含め室温調整やかけ湯をしながら温まってもらっている。シャンプーなどはホームで準備しているが、個人で好みの品を用意される方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の体調に合わせて居室で休息されたりしている。夜間眠れない方には、かかりつけ医に相談し、本人に合った眠剤を処方してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どの病気に使う薬か、どのような副作用があるのか等職員が理解し服用してもらっている。服薬時には必ず薬袋の名前を確認し、服用してもらっている。状態の変化等に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、希望される方には積極的に手伝ってもらっている。飴やお菓子を楽しみにされている方、新聞や雑誌を読まれる方等自由に過ごされるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、病院受診以外の外出は無い。	入居者の「外出したい！」という気持ちに応えたいが、今年度も以前のような外出支援は控える現状が続いている中で、地域の子も神輿や綱引きが玄関先に来てくれるなど懐かしい光景を楽しまれている。4月には久しぶりに桜や地域の特産である梨の花の開花見学に出かけ、入居者が大変喜ばれており、その様子は広報紙でも紹介されている。紫陽花見学も計画したものの、コロナ対応の点から中止されている。また、家族との外出もまだ再開に至っていない。	外出が出来ない分、ホーム内で初詣参拝を再現したり、夏祭りや大運動会など職員の工夫で実現している。今後は感染症の状況を見ながら外気浴や近隣の散歩など、身近な外出支援の再開から取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はほとんどおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族と話したいと希望があった場合は、職員がダイヤルして家族と会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の温度や照明の調節を行い、気持ちよく過ごせるように支援している。壁には季節の花や果物等を色紙や色画用紙で作成し、季節を感じてもらっている。また金魚を飼育することで癒しになればと工夫している。	食事やテレビ視聴など日中のほどんどを過ごすリビングホールは、コロナ禍にはユニットで区切り活動の場としていた。季節や入居者の状況に応じて採光や温度を調節し、テーブル席やソファでの談笑やテレビ視聴などゆっくりとした時間を過ごされている。また水槽に金魚を飼育し、餌やりは職員がおこなっているが、入居者は泳ぐ様子など楽しみにされているようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで寛ぐ時は気の合った利用者同士、近くの席に座ったり、一人になりたい時は居室ですごしたりして自由に過ごしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや夜具等、家で使用していた道具を持ってきてもらい、居室を馴染みのある空間にしている。	入居にあたって必要な品(寝具・衣類他)や、馴染みのタンスなどが自宅にあるか尋ねている。以前のように木製の家具など運搬の面からも持参しずらくされており、プラスチック収納ケースを準備される方が多いようである。ホームで管理しているタンスもあり必要に応じて貸し出されている。家族の中には衣替えをされることもあるが、主に職員が行っており、寝具や衣類など損傷が出ている場合は、家族へ伝えながら揃えている。	テレビや椅子など自宅からの持ち込み品が見られた部屋もあるが、最小限必要な品のみの部屋も多く見られた。物品の多少ではないが、今後も家族の協力や職員の工夫により個々に応じて居心地良く過ごせる居室環境に努めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所がわかるように、張り紙をしたり、安全に移動が出来るように廊下に物を置かないように心がけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里(有明海ユニット)		
所在地	熊本県八代郡氷川町加島943番地		
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町村受理日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

館を出ると、目の前には田んぼが広がり、その先にはビニールハウスが見え、のどかな景色に心が安らぎます。館内は時間に追われることなく、ゆっくりと過ぎていき、入居者も自分の時間で自由に過ごされています。入居者が楽しみにされているのが外に出かける行事です。正月は馴染みの神社に初詣に出かけます。花見(桜、紫陽花、梨)には、お弁当やおやつを持って出かけます。地元は吉野梨の産地で、果てしなく広がる梨畑の真っ白な花は見ごたえがあります。館内での行事も楽しみにされており、節分、夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会を実施しています。日ごろは家族や知人等の訪問が多く、家族とのつながりを大切にしていますが、コロナ禍で面会が出来ない状態です。入居者が楽しく、安心して生活できる施設を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りをする部屋の壁には理念が表示しており、常に職員の目にとまるようにしてある。理念をもとに月1回の職員会議時にカンファレンス等を通して実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で面会禁止になっている、地域の行事で敬老会に参加していたが今回も参加しなかった。日頃から地域との交流は少ない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族等には、状態報告として認知症について話を意識してするようにしているが、地域全体に向けては発信ができていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、運営推進会議は行なえていないが、行事、利用者の状況、職員の研修内容等各委員さんへ書面にて報告できている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の更新申請時や認定調査訪問時などに、事業所の現状報告を行い町からも地域情報を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強会を行い身体拘束の弊害を理解している。職員同士で声かけを行いケアに取り組んでいる、玄関などの出入口は開錠している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者を安易に愛称で読んだりせず、言葉の暴力には気を付けている。利用者本意を念頭に、男性の入浴介助や排泄介助を嫌がる利用者には女性スタッフが対応したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は事業所内で研修を行い、改めて入居者のキーパーソンを確認し、制度が活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の契約内容に変更がある場合には十分な説明を文書にして理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見書を設置しているが利用者が少ない。家族から電話などあった時は必ず利用者の近況を報告し家族からの要望や相談に応じ、要望等出来る限り運営に反映させるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で各自が自分の意見をきちんと言い、改善できることは改善するように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の働きぶりに対してのボーナスの査定はきちんとできているが、働きやすい設備や道具が揃っていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会場に向いて受講することはコロナ禍で行なわれていないが、グループホームブロック会の研修資料をもとに事業所内で研修している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会はない。コロナ禍であり、相互訪問等の活動はできない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に頂いた情報を職員全員で共有し、本人の安心を確保するために努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が入居する前には家族が不安に思うことや要望を聞くようにしている。また、プランに足りないサービスを入れ込んだりして情報共有に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭では必要としなかった歩行器や杖等も入居時には、ケアマネジャーに意見を聞いたりしてサービス導入の準備をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし共感しあいながら、職員自身の相談ごとを話したりして、アドバイスをもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームで知ることがある本人の困り事を家族に伝えたりして、共に本人を支え合える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士、近隣の方々が多いため、地域の話題でコミュニケーションが取れるように努めている。またコロナ禍で途切れているものの散髪屋さん等に等には関係継続の支援のお願いをしていこうと思っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合ったもの同士が横の席に座り関係を深めたり、また、孤立しない様に職員が会話の補助をしたりして支え合う関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、その方の落ち着き先が決まるまで定期的に連絡を取り、本人や家族の相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の行動や会話から暮らし方の希望・意向を知ることが出来、本人本位を優先し支援に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基に、今までの生活が継続できるように、利用者へ寄り添うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体機能や精神状態に合わせて、無理強いせず見守りを行いながら支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の会議時、注意すべき点を話し合っている、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、それを全員で内容把握共有し、ケアに繋げている。プランが合わない時は変更プランを立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の「介護サービス管理日誌」に記録し、職員間で「申し送り帳」を活用して実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者に合わせて、その時々で支援できている。病院受診時の付き添いや食事形態等、状態に応じて変えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前はなじみの美容院や買い物、神社へ出かけていたがコロナ感染予防の為支援できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期往診により体調管理できている。また体調不良時はかかりつけ医に相談し指示を仰いでいる。家族にも経過報告できている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務していないので月1回の往診時や訪問看護師とは、バイタル用紙や専用看護ノートを使用して協働している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院へは書面で情報提供を行い、病院の連携室と連絡を取り合い、退院に関しては家族を含めて密に連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合や終末期に事業所が出来る事、出来ない事を説明している。入居されてからもその都度方針を共有し、チームとして支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網に従い最短で応急手当ができるようにしているが定期的な訓練はしていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害時の避難訓練は机上では行った。火災避難訓練は年に2回行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをこころがけている。馴れ合いの会話にならないよう気を付けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、お茶や牛乳以外でも飲む時間帯や好きな飲み物を利用者の希望に添って提供したり、入浴日の変更をしたり、食事が入らない時はそれに代わるものを食べてもらったり、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースにあった支援をしている、部屋でテレビを見たいので毎日の体操には参加しませんなどの意思表示や希望を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の自己決定できない方については、本人の好みに合わせて準備している。毎日何回も服を着替える方には注意せず、よく似合っていると褒めたりして自尊心を守っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸、スプーン、自助具等その人に合ったものを提供し食事を楽しんでもらっている。食後は食器を運んだり、洗った食器を拭いたりしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない人には好きなお菓子やくだもので補ってもらい、補水量が足りない時にはお茶、牛乳以外で好きな飲み物を提供している。また栄養不足にはかかりつけ医の処方で栄養補助食品を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯専用ブラシやスポンジブラシ等を使用し、その人に合った口腔ケアを1日3回はしている。自分でブラッシング出来る人、義歯洗浄が出来る人など全介助にならない様支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導することによって、尿意、便意がはっきりしない人も立位の声かけ、手すりの使い方を支援し介助している。歩行困難な利用者でも日中は両脇を抱え2人介助している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の少ない方への水分補給の促し、運動量が少ない方には館内を歩いたり、腹部マッサージをしている。また毎日の体操には参加を呼び掛け薬に頼らず便秘にならないよう心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に本人の拒否があった場合は、時間をずらして誘ってみたり、翌日に変更したりして、週に2回は入浴できるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、昼食後等ホールで休息を取られる方、ベッドで休まれる方等自由に過ごして頂いている。就寝は本人が希望される時間に休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法用量についてはある程度把握できている。安定剤や睡眠薬等は何時に服用したか等申し送りをしている。その効果の確認も必ず行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花壇の手入れ、塗り絵、テレビ鑑賞、ラジオを聞いたり、新聞や週刊誌を読んだりの日々の楽しみ事やおしぼり作りやタオル干し等の手伝いを喜んでしておられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で殆どの外出行事が中止になった。4月の花見だけが実現し、花見客がほとんどいない場所で写真撮影等をして楽しまれた。家族や地域の人々との外出もなかった		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で通帳を預かっている人はいるが、現金を所持している人はいない。必要な衣類やし好品はスタッフが代わりに購入し、月1回の施設料請求と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を読める人はいるが、書ける人は殆どいない。電話はあった時は取り次いでいる、また本人が電話したいときは支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾ったり、季節を感じる風物詩を置いている。金魚を飼ってその様子を楽しんだりしている。カーテン等で光の調整を行い、全巻空調の調整を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルと椅子の他にソファを2つ設けている、気の合ったもの同士が自分の席を離れておしゃべり等をしている、また共用空間にはテレビもあるので一緒に楽しんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具、夜具、テレビラジオ、時計等設置しつろげるように配慮している。壁には家族の写真や誕生日色紙等を飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は同じつくりなので、ドアに部屋番号や本人の名前を貼っている。トイレやお風呂場など矢印を使って分かるように工夫している		